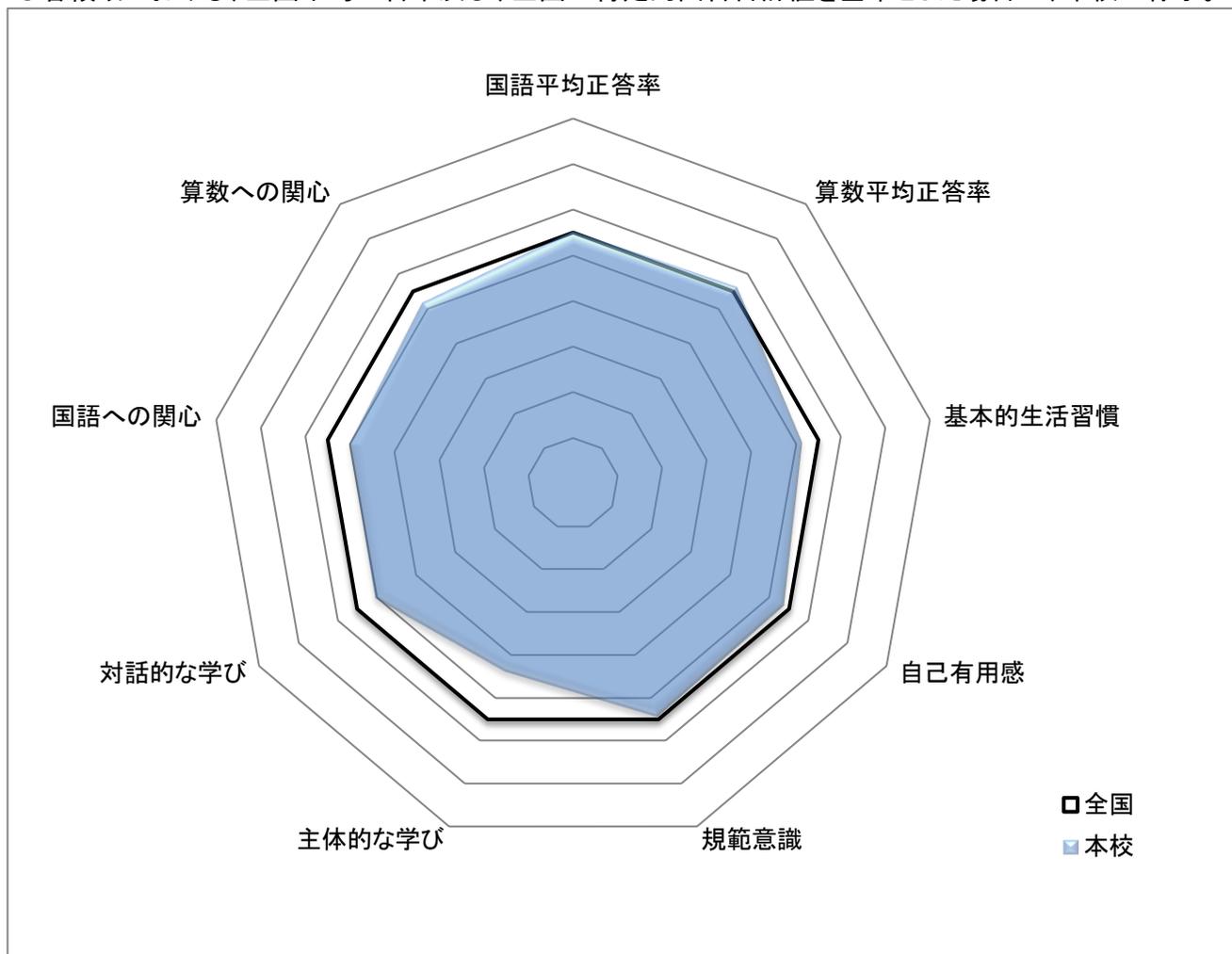


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・各教科の平均正答率は、全国平均を上回っているが、教科への関心や主体的な学びの肯定的回答率が低い。学習に対する意欲を向上するための手立てが必要である。

・基本的な生活習慣も平均を下回り、課題が見られる。学校での指導に加え、家庭や地域との連携を一層強めるなどして、正しい生活習慣の定着が必要である。

《授業改善のポイント》

・低学年の段階から、教科を問わず、授業の中で自分の考えや意見（学習感想、振り返りなど）を書く機会を設ける。

・自分の考えと他人の考えを比較し、相違点や気づいたことを文章化する学習を増やす。

・基礎基本の確実な定着やペア活動やグループ活動での協同的な活動を通して、「できた！わかった！！楽しい！！！」と児童に味わわせ、学習意欲向上につなげる。

・基本的な生活習慣を身に付けるために、学校で行っている「3つのあ（あいさつ・あつまり・あとしまつ）」の意義をしっかりと理解して取り組めるように指導をする。

《チャートの特徴》

・学習における平均正答率は、国語・算数共に全国平均正答率を上回り、学習内容の定着が見られた。

・学習への関心についてはどちらの教科も全国平均回答率の9割程度で、主体的な学習や対話的な学習における児童の回答も全国平均を下回っている。

・基本的な生活習慣にも課題が見られるが、規範意識や自己有用感など学校生活を過ごす中での項目は平均を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

学期ごとに1週間、生活リズムウィークを設定し、「生活リズムカード」を活用して、1日の起床・就寝時刻、食事、挨拶等、家庭と児童が一緒に振り返る機会を設ける。